

大学評価・学位授与機構大学評価シリーズ

大学評価文化の展開 ―評価の戦略的活用をめざして

編著：独立行政法人大学評価・学位授与機構



- 評価は「目的ではなく、手段である」とし、評価の際に必要な資料・データの重要性や情報データベースの役立て方をわかりやすく説明しています。
- 学生による授業評価や教員が授業内容・方法を改善・向上させるための組織的な取り組みである「FD」について、事例を中心に解説します。
- 社会全般の理解度や活用のされ方という点で改善の必要がある評価結果の公表のあり方、すなわち情報発信の問題について、議論します。

A5判・定価2,000円（本体1,905円＋税）

発行元：株式会社ぎょうせい

<http://www.gyosei.co.jp>

目次

第1章 評価は、目的でなく、手段である！

- 第1節 大学のユニバーサル化・グローバル化と評価
- 第2節 評価のための資料・データの収集と活用
- 第3節 「大学情報データベース」の始動と大学の自己分析への活用

第2章 教育力を問う

- 第1節 教育業績記録の作成
- 第2節 教養教育の新たな挑戦
- 第3節 専門教育力：「レクチャー・ラボ統合型授業」に基づく機械工学教育の革新

第3章 研究力を問う

- 第1節 多様なレベルの研究評価
- 第2節 研究評価のための指標
- 第3節 地域社会に貢献する研究

第4章 評価活動を問う

- 第1節 学生による授業評価の新たな試み
- 第2節 ファカルティ・ディベロップメントと教員の相互授業参観
- 第3節 教員の教育研究業績評価

第5章 情報発信を問う

- 第1節 大学が行っている情報発信の分析
- 第2節 社会が求めている情報は何か
- 第3節 大学の情報発信